

## 技術選択と工業化一戦前期日本における繊維産業の包括的再検討

橋野知子（大塚啓二郎氏との共同研究）

### 【要旨】

明治期の日本が、ヨーロッパからの先進技術の導入に成功したことは、良く知られている。特にその顕著な例として、近代機械紡績業においては英国のリング紡績機の導入とインド綿花の導入により、日本はインドをアジアの綿糸市場で圧倒したことが挙げられている。また、座繰製糸や綿織物・絹織物の在来産業の産地は国のさまざまな地域に存在し、導入技術を利用して発展に成功した。本研究は、戦前日本の工業発展の成功に貢献した重要かつ共通する要因を明らかにする試みである。その方法として、近代綿紡績業、製糸業、在来の綿織物業や絹織物業、そして座繰製糸業を含む繊維産業を包括的に数量データを用いてレビューした。そこで見出されたのは、これらの産業が共通して適正技術を選択し、発展初期の豊富な労働力がやがて稀少になるという要素賦存の変化に技術面で適応して発展したという共通点であった。

### 【キーワード】

選択的技術選択、適応的技術変化、産業発展、雁行形態論、労働集約的工業化

### 【報告者からのひとこと】

明けましておめでとうございます。2022年が、世界にとって明るい年となることを願っております。この度は、第609回例会での報告の機会をいただき、ありがとうございます。本研究は大塚啓二郎氏との共同研究で、昨年12月に『国民経済雑誌』224(6)に掲載されたばかりの論文です。現在、本研究のエッセンスをもとにリバイズし、英語論文にする作業を進めております。私はこれまで、織物産地の形成・成長・発展そして衰退あるいは再生をテーマに、西陣・桐生・福井を比較しつつ研究を進めてきました。三産地の研究の成果として『比較産地発展論』をまとめる前に、日本の繊維産業の全体像の把握と繊維産業における織物業の位置づけを検討したいと考えています。戦前日本の繊維産業の全体像の把握という点が、本稿のユニークなところだと思っています。さまざまなご専門の皆様方からコメントをいただけると、誠に幸いです。